

私たち民医連は、無差別・平等の医療と福祉の実現をめざす組織です

第47回 全日本民医連  
呼吸器疾患研究会in熊本  
テーマ「プライマリケアとしての呼吸器疾患」  
2023年  
日時▶9月30日(土) 8:45~16:30  
基調講演 千葉大学予防医学センター教授 近藤 克則 先生  
鹿が丘つた病院理事長・院長 津田 徹 先生  
■お問い合わせ  
第47回全日本民医連呼吸器疾患研究会熊本事務局  
TEL 096-381-8743(総務課)(担当 宮村・迫田)

# みやぎ民医連

発行所 宮城県民主医療機関連合会  
仙台市青葉区木町通1-8-18  
〒980-0801 田村ビル5F  
TEL 022-265-2601  
FAX 022-263-8266  
e-mail:dai@miyagi-min.com  
発行人 坂田 匠  
1日・15日 月2回発行 1部 50円

## 75歳以上医療費2割化後のアンケート調査結果

### 医療を削るか、生活を切り詰めている

県連事務局次長 石澤 旬



7月5日、宮城県民医連は県庁で記者会見し、75歳以上医療費2割化実施後アンケート調査結果を報告しました。宮城県民医連から、国民運動部の小山茂樹部会長(みやぎ県南医療生協)、高橋輝美部会事務局長(坂総合クリニック)、県連の石澤旬事務局次長と大賀直純事務局員の4名が参加しました。

石澤次長から調査結果を報告。2022年11月から2023年1月にかけて加盟する医療機関の利用者などを対象に、郵送回収で調査を行い、1192枚を回収。そのうち、75歳以上で10月から2割になった425件についてまとめたものです。

8割以上が窓口負担を「とても重い」「重い」と感じており、6割の方が「医療を削るか、生活を切り詰めている」状況でいた。負担感が大きいのが、受診を止めるわけにはいかない。「何もかも高くなって節約も厳しい」と不安を訴える声も寄せられています。また、窓口負担が大きく増加す

ることを緩和する激変緩和措置については、半数以上が「手続きしていない」と回答し、その半数近くが「手続きの仕方が分からない」と答えています。高橋部会事務局長は、

自由記載の記述から「複数の受診をしており、負担がとても重いので1割に戻してほしい」との声、医療機関の窓口で2割になった対象者の困惑ぶりを紹介し、2割化の中止を訴えました。

調査を通じて、対象となった方の多くはもともと余裕のない中で受診しており、2割負担化が最も医療を必要としている人たちの受診権を侵害することが明らかになりました。「軍事情費を増やすより、私たちの暮らしを

守るために予算を使ってほしい」は切実な声です。引き続き、国や後期高齢者広域連合に2割化中止を求めるとともに、自治体キヤラバンで①高騰を続ける物価高への対応として生活支援の費用補填、②激変緩和措置の制度と手続き方法の周知徹底を求めていきます。

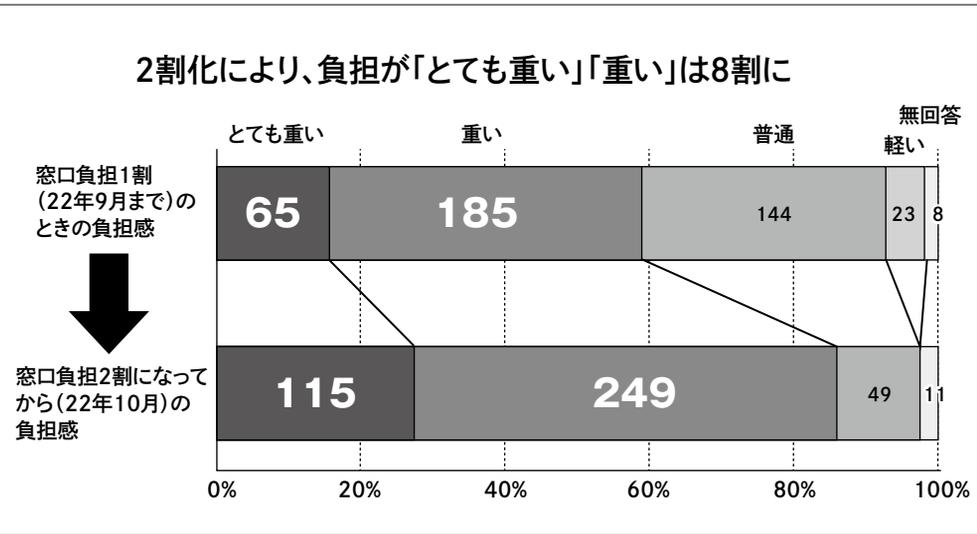
同時に、県連歯科部では歯科体験の具体化について協議検討を行いました。その後、歯科体験プロジェクトチームを発足し、歯科衛生士と歯科工士の各職種について理解と興味を持っていただくことを目標に、様々な体験内容をチーム全員で考え、今回実現させることができました。

主な体験内容として、歯科衛生士部門は、ウズラの卵を使用してスケーリング(歯石取り)体験や、歯科用ユニットの操作、モニター一体型位相差顕微鏡で自身の口腔内細菌の観察でした。

参加者は、歯科用診療機材を扱うことが新鮮だったようで、スケーリングやユニット操作、口腔内観察について、真剣に取り組んでいる様子がかげえました。自身の口腔内細菌が動いている所をモニター越しに見て、驚いた表情で観察している方など様々でしたが、いずれも楽しそうに参加していたように感じまし

た。歯科医師や歯科衛生士から直接現場の声を聴けたことは貴重な経験であり、更に各職種について理解が深まり、参加者にとって有意義な時間となったのではないのでしょうか。

歯科工士部門での体験では、歯科機材を用いてオリジナルガラスコップとスチールボール製作を体験してもらいました。オリジナルガラスコップ製作は、表面のデザインを考えながらシール等を貼り、その上からサンドブラスト処理を行った後にシールを剥がすと



8月6日、松島海岸診療所歯科で、中学・高校生を対象とした歯科体験を開催、6名が参加しました。体験開催に至るまでの経緯として、県連第3回お仕事体験フェアと

## 第1回 県連歯科お仕事体験フェア 時間を忘れて熱中

松島海岸診療所歯科 歯科技工士兼事務 千葉 佑弥

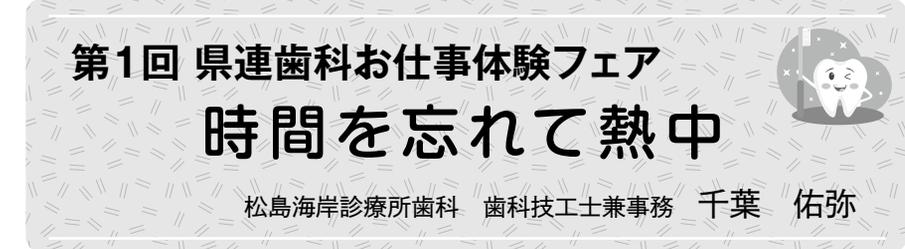
歯科工士の仕事は、患者さんの歯をきれいに保つことだけでなく、美しいデザインを追求することです。今回は、県連歯科部が企画した初めての歯科体験であり、保護者を含めた参加者自身が全体験を通じて、歯科工士の仕事について理解を深め、興味を持っていただくことが目的です。



歯科ガラス加工体験

今回、県連歯科部が企画した初めての歯科体験であり、保護者を含めた参加者自身が全体験を通じて、歯科工士の仕事について理解を深め、興味を持っていただくことが目的です。

最後に、歯科体験が無事開催できたのは、協力していただいた宮城厚生協会(古川民主病院歯科)、長町病院附属歯科クリニック、松島海岸診療所歯科の3事業所の職員スタッフがあつたことだと思っております。それぞれ職場は違いますが同じ宮城県民医連を通し、一つの目標に向かって団結できたことは大変素晴らしいことではないでしょうか。私自身、この経験を活かし自身の業務に役立てよう努力していきたいです。



## 健康手帳

来年4月、診療報酬改定が行われる。医療機関の経営に大きな影響があるが、

特に約30年振りにインフレ局面で改定を迎えるので、社会保障費増加を高齢化による増加範囲に収めようとする、それ以外のものは反映されない。そうするとコスト増加を料金に転嫁できない医療機関の経営は圧迫される。▼医事の視点では、請求ルールの変更や新しい項目に関心が向くだろう。管理者の視点では、同じ医療活動をすると改定によりプラスなのかマイナスなのか、人員配置や何か投資が必要なのか気になるだろう。患者側の視点では、診療報酬改定に関心を持っていく人は少ないと思うが、診療報酬が上がることで自己負担が増えることになってしまふ。▼医療機関の立場では、物価高騰や働き方改革等の影響による人件費増に耐えられる診療報酬が上がるような運動が、今まで以上に重要になってくる。一方で

現行の患者側の医療費負担による仕組みは、そのことによって医療費が増える必要ない人たちがも出てくることになるので、社会保障のあり方についての取り組みもとても大事になってくる。

# 「健康チェック&寄席」

## 悲しみを乗り越え 笑って元気になろう



落語を楽しむ参加者

7月1日、仙台南健康友の会主催で健康カフェが開催されました。あすと長町第一復興住宅集会所には8名の方が来場、スタツフ5名と「健康チェックと寄席」を楽しみました。

参加者の皆さんが会場に入ると、最初に健康チェックです。作業療法士の福岡祥子さんが、血圧を測り、健康状態を聞き取りました。

健康チェックを終えた方が集まって、みなさんでお話を始めました。その中のお一人80代女性から、復興住宅にきた経緯をお聞きしました。

「3・11の東日本大震災で、おじいさんと2人で追いかけてくる津波から裏山を逃げ、振り向いて下を見ると津波が2階建ての家を飲み込んでいた。パーキンソン病のおじいさんを引っ張って山の上に登り、やっと助けが来てくれた。震災後、娘家族が近くに住んでいるあすと長町に移り住み、孫9人、ひ孫11人も全員大きくなった。おじいさんは亡くなるまで、おばあさんに助けられたと口にしてた。生まれて初めての経験だけど、もう御免だ」と話されました。震災から12年が経っても鮮明に記憶していました。長町病院の事務・



特別企画の寄席は、友の会事務局長・平尾伸二さんが紹介。「体調を崩さないため、栄養・休養・笑い」が大切。皆さん

笑って元気になりました。友の会事務局長・平尾伸二さんが紹介。「体調を崩さないため、栄養・休養・笑い」が大切。皆さん

後には落語のアンコールが起きました。大いに笑い、参加者のみなさんは笑顔で帰られました。

(坂総合病院)は、産婦人科医の視点で大会テーマに込めた想いを伝え、「皆さんの明日が明るく元気になるよう願っています」と話しました。宮城県大会実行委員長の佐藤郁子さんは、多賀城が軍都だったことを話され、「子どもたちには核兵器のない平和で明るい未来を手渡そう」と話されました。

最後は、次回開催の大崎実行委員会にバトンと渡し、会場は大きな拍手で盛り上がりました。

## 第62回 宮城県母親大会 in 多賀城

# 子どもたちにいのち輝く未来を



6月18日、多賀城山王公民館で宮城県母親大会が開催され、29のサテライト会場と69の個人視聴を結び、合わせて995名が参加しました。

午前は、4つの分科会が行われました。

「おうち性教育」では、東北福祉大学講師の鎌田克信さんが、「親子で話す性のホント」と題して、子どもたちへの性の伝え方を話され、会場には52人が参加されました。

子どもたちは純粋に知りたい気持ちでいっぱいなのに、大人が恥ずかしいこととして捉えてはいけません。「逃げない」「向き合う」「備える」ことが大切です。教えることができなければ、一緒に学ぶ。キチンと向き合い、一緒に学ぶことの大切さを伝

えました。

講演後、孫の性教育のために参加したという方の質問に、鎌田さんが熱心に答えていました。

「若者のしゃべり場」では、東日本大震災を伝え続けている「さすなプロジェクト」と、環境問題に取り組む「フライデーズフォーフューチャー(F4F) 仙台」が報告。グループ討論で、若者同士の熱い会話に感極まった参加者が涙する様子も見られました。

午後は全体会が行われました。蒸し暑い日でしたが、会場の体育館は参加者でいっぱい。史都多賀城の紹介や多賀モリ体操で会場全体が盛り上がり、開会宣言。

開会の挨拶で現地実行委員長の松山由有子さんが、開会宣言。

記念講演は武蔵野美術大学造形学部教授の志田陽子さんの「平和を育てるー憲法に託された希求」について。安部3文書について憲法学者の視点で危険性を解説。法や財政面等の問題点を詳しく話



メイン会場が一体になった多賀モリ体操

連載 154

## 私の好きな憲法は何条?

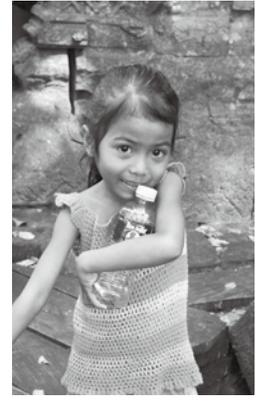


乳銀杏保育園 主任保育士 早坂 美和

この春、息子が小学校に入学しました。近所の上級生に連れられ、ピカピカのランドセルを背負い登校している姿を見て、大きくなったなと嬉しく思います。今回憲法を考える機会を頂き、我が家の出来事から第二十六条をあげたいと思います。憲法には「すべての国民は、法律の定めるところにより、その能力に応じて、ひとしく教育を受ける権利を有する」とあります。私が10数年前

にカンボジアに旅行した際、様々な観光地の入り口に沢山の子どもたちがいました。「コレアゲルヨ」「コンニチワ」と片言の日本語で声を掛けてきます。ガイドさんに関わらないようにと言われていたので、素通りするしかありません。孤児院ビジネスという言葉があり、貧困や虐待など様々な家庭問題で子どもを育てられず孤児院に預けたものの、子どもをお金儲けのために扱う話を聞き、とてもショックを受けました。息子たちのように学校へ行き、勉強し学ぶ喜びを感じ、友だ

ちと一緒に様々な活動を通して楽しさや達成感、意欲を育むことができるのは、憲法で教育を受ける権利が保障されているからなのです。保育園では大好きな保育士や友だちとの関わりや遊びを通して、子どもたちに「もう一回やりたい」「もっとやりたい」という学びの土台を作ること(教育)を行っています。憲法に



できるような保育士の配置基準ではありません。小学校において35人学級が実現されましたが、現場ではより少ない少人数を求めているのではないのでしょうか?全ての子どもたちの最善の保育・教育を行うために、そして子どもたちの笑顔と笑い声が絶えない社会のために、行政に働きかけていきたいです。



7つのマチガイ [問題]上の絵と下の絵では7つのマチガイがあります!どこでしょう? (作・野上和彦)



クイズの解答は事業所名、氏名、職種を記し県連事務局に送ってください。メールは不可。ファックスは可。正解者に抽選で5人に図書カードを進呈いたします。余白に日頃考えている事などを書き添えて下さい。「声」の欄に掲載させていただきます。応募資格: 臨時・パート含む県連職員。締切9月29日当日消印有効。発表10月15日号。

7月1日号答え「サクランボカリ狩り」コース。応募総数15件。当選者: 加藤千恵子/ケアステーションあゆみ、佐藤鈴/古川主病院、音羽幸恵/長町病院、渡辺恭子/坂総合病院、渡辺恭子/ケアステーションしおかぜ(敬称省略)